

会 報

No.85 (2006 年 11 月)

目 次

◆ 第 15 期評議員（理事）選挙について……………	1
◆ 第 29 回総会のご案内……………	2
◆ 学会事務局開設のお知らせ……………	3
◆ 日本分子生物学会 2005 年度会計収支決算報告……………	5
◆ 2005 年度会計監査報告……………	6
◆ 日本分子生物学会 2006 フォーラムのお知らせ（その 3）……………	6
◆ 日本分子生物学会三菱化学奨励賞授賞式および受賞講演のご案内……………	9
◆ 日本分子生物学会第 7 回春季シンポジウムのご案内……………	10
◆ 学術賞、研究助成の本学会推薦について……………	11
◆ 男女共同参画委員会活動報告……………	11
◆ Genes to Cells 編集室より『投稿規定等に関するお知らせ』……………	13
◆ Genes to Cells オンライン版へのアクセスに関する報告とお詫び……………	13
◆ 各種学術集会、シンポジウム、講演会等のお知らせ……………	14
○ 第 1 回トランスポーター研究会……………	14
○ 第 3 回びわこバイオ国際セミナー 「ゲノムから産業へー創薬・医療への新たなアプローチ」……………	14
○ 千里ライフサイエンスセミナー「自己免疫疾患とその制御」……………	15
◆ その他……………	16
○ 平成 19 年度に委託する研究開発課題の募集要項（畜産技術協会）……………	16

日 本 分 子 生 物 学 会

(THE MOLECULAR BIOLOGY SOCIETY OF JAPAN)

URL : <http://wwwsoc.nii.ac.jp/mbsj/>

日本分子生物学会の事務局は、以下へ移転いたしました。

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 3-11-5

20 山京ビル 11 階

日本分子生物学会事務局

TEL: 03-3556-9600 FAX: 03-3556-9611

E メール : info@mbsj.jp

【日本分子生物学会入会申込先】

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/mbsj/membership1.html>

【2006 フォーラムに関する問合せ先】

日本分子生物学会 2006 フォーラム事務局

〒532-0003 大阪市淀川区宮原 4-4-63 新大阪千代田ビル別館 9 階

TEL: 06-6350-7247 FAX: 06-6350-7248

E-mail : mbsj2006forum@aeplan.co.jp

◆日本分子生物学会 第 15 期評議員（理事）選挙について

日本分子生物学会会則第 11 条と同細則第 7 条によって、第 15 期評議員（理事）選挙を行います。そのため、柳澤 純（筑波大・生命環境）、奥脇 暢（筑波大・基礎医学）、山本雅之（筑波大・基礎医学）の 3 氏が選挙管理委員として会長より委嘱されました。

次いで選挙管理委員 3 名の打合せを経て、具体的には次のように選挙を行うことになりましたので、会員各位のご協力をお願いいたします。

記

今回の選挙における選挙権者、被選挙権者は、2006 年 8 月 31 日までに入会手続きを行った正会員とします。同封の「選挙権者・被選挙権者名簿」より 10 名を選んで、その氏名を投票用紙にご記入下さい。投票用紙を同封の小封筒（投票用紙在中と印刷）に入れ、封をした後、同封の送付用封筒（選挙管理委員会御中と印刷）に入れて、ご自分の住所、所属および氏名を記入のうえご送付下さい。

先の会報でお知らせしましたように 15 期評議員（理事）選挙に際しては投票の参考のために評議員会により 130 人の候補参考リストが作成されました。同封のリストを御覧下さい。このリストはあくまでも参考リストであり、このリスト以外の会員への投票を何ら妨げるものではありません。

投票締切日：2006 年 11 月 29 日(水)

開票予定日：2006 年 12 月 2 日(土)

当選者の決定：得票数の多い順に 30 名を当選者とします。同数得票の場合は年長順とします。なお、次の場合には投票または被記名者が無効となりますので、ご注意ください。

- 1) 投票用紙に 11 名以上連記した場合。ただし 10 名以下の場合には有効です。
- 2) 投票者の氏名が送付用封筒に記入されていないとき。
- 3) 日本分子生物学会細則第 7 条 3 項により、以下の方は連続して評議員になることができませんので、今回は記名しないで下さい。なお、この方々に投票のあった場合には、その方に関してのみ、無効といたします。

谷口維紹、辻本賀英、鍋島陽一、柳田充弘

- 4) 法人化に基づき、第 15 期評議員の役職名は“理事”に変更されますので、ご承知おきください。

2006 年 11 月 1 日

日本分子生物学会選挙管理委員会
委員長 柳澤 純
委 員 奥脇 暢 山本雅之

〈参 考〉

会 則（抜すい）

第 10 条 本会には、会長 1 名、評議員若干名、会計監査 2 名の役員をおく。

1. 会長は本会を代表し、会務を統括する。
2. 評議員は評議員会を構成し、本会に関する諸事項を審議する。
3. 会計監査は本会の会計を監査する。

第 11 条 評議員は正会員の中から正会員の投票により選出される。会長は評議員の互選により定める。会計監査は評議員、幹事以外の正会員の中から評議員の投票により選出される。役員の任期は 2 年とする。

細 則（抜すい）

第7条 評議員の選出は次のように行う。

1. 会長は正会員の中から3名を選んで選挙管理委員を委嘱する。
選挙管理委員会は選挙事務を行う。
2. 投票は1人1票、無記名10名連記とし、郵送によるものとする。
3. 評議員は連続して3回選出されることはできない。この制限に抵触する者の氏名は選挙要項に公告される。
4. 得票者中の上位の者より順に30名を選出する。同数得票者については選挙要項に従って順位を定める。

第8条 新会長の選任は次のとおり行う。

1. 会長は新評議員を招集する。新評議員の互選により新会長を選ぶ。
2. 投票は無記名单記とする。投票総数の過半数を得た者を新会長とする。
3. 投票総数の過半数を得た者がいないときは、高点順に2名をとり改めて投票を行い、最高点者を新会長とする。このとき同点の場合には抽選により決定する。
4. 会長は連続して3回選出されることはできない。
5. 会長は評議員を兼ねるものとする。

◆第29回総会のご案内

第14期日本分子生物学会会長 花岡 文雄

前号の会報84号でお知らせしました通り、本年度の総会では、会員の皆さまに、以下の重要議案を審議頂きます。下記要領により、2006フォーラムの第2日目に、第29回総会を開催いたしますので、多くの会員のご出席をお願い申し上げます。

ご都合がつかない場合には、この会報に同封されている委任状はがきをご提出下さるようお願いいたします。

記

日 時：2006年12月7日(木) 12:00～13:00

場 所：名古屋国際会議場（センチュリーホール）

予定議題：

- 1) 特定非営利活動法人（NPO 法人）設立の件
- 2) 会費改定および会計年度変更の件
- 3) 会則改正（法人定款へ移行）の件
- 4) 前年度会計収支決算承認の件
- 5) 来年度事業計画および予算承認の件
- 6) その他

以下、重要議案につき、ご説明申し上げます。

○ 学会の法人化（特定非営利活動法人）について

本年5月26日、通常国会において「公益法人制度改革関連3法案」が成立（平成20年施行）いたしました。その概要を申し上げますと、従来、原則非課税であった公益法人（社団、財団）は、中間法人も含めて新しいカテゴリーとなり、全体として課税対象団体にまとめられることになります。原則非課税から原則課税への方向転換であり、その中で再審査が行なわれ、“本当に” 公益的な事業を行

なっている団体にも、非営利法人の資格が再付与されることになります。

学術団体をとにかくこの流れに準じ、任意団体の収益事業にも大きなメスが入れられることが想定されており、従来、税務申告を行なっていなかった学術団体においても、大きな事業を行なっている団体への税務調査立ち入りが予想されております。

本評議員会では、専門家のレクチャー、将来計画検討委員会からの提案、本学会の会計状況を踏まえ、第29回総会に本件を諮り、来年1月にも法人申請を行う旨、その方針を決定しております。今後、特定非営利活動法人を目指し、より適切な会計処理（本部会計と年会会計の一元化）に切り替えていく予定ですので、総会における会員皆さまのご承認をお願いいたします。

注) **公益法人**：非営利事業を目的とした、社団法人と財団法人の総称。第164回国会で成立した公益法人制度改革関連法では、全公益法人に認めていた税制優遇措置を、公益性の高い法人に限るよう改めた。

○ 2007年度からの会費改定のご願い

評議員会では、学会法人化ならびに学会事務局（事務所）開設に伴い、2006年度～2008年度の収支を、法人会計に準拠した科目にて試算検討いたしました。その結果、正会員、賛助会員の皆様には、次の通りに2007年度からの会費改定をお認め頂きたく、どうかご理解のほどお願い申し上げます。第29回総会におきまして会員皆さまのご承認を頂きたく、ご協力のほどお願いいたします。

※ 現在の会費金額は、13年間据え置きです。

『会費改定案』

正会員会費：4,500円 → 6,500円

(海外会員も同様)

賛助会員会費1口：30,000円 → 40,000円

※ 学生会員会費3,000円と、正会員、学生会員それぞれの入会金1,000円は据え置きです。

○ 会計年度変更について

法人になった場合には、事業年度（会計年度）終了後、3カ月以内に、収支決算書・財務諸表、事業報告書等を公的に提出しなければならず、総会開催日（定款上、承認すべき事項がある）との兼ね合いもあり、会計年度変更が必要となります。したがって、来年度より会計年度（事業年度）の変更も予定されております。

会計年度（事業年度）：4月～3月 → 10月～9月

移行期においては、会計年度は次のようになります。

※ 2006年度会計 → 2006年4月1日～2007年3月31日

※ 2007年度会計 → 2007年4月1日～2007年9月30日

※ 2008年度会計 → 2007年10月1日～2008年9月30日

◆学会事務局開設のお知らせ

日本分子生物学会会長 花岡 文雄

先の会報で予告いたしました通り、本年9月、以下の住所に独自事務局（事務所）を開設いたしましたので、お知らせいたします。本部事務業務（庶務、会計、法人準備、役員選挙等）については、すでに新事務所にて業務を開始しております。会員業務（会員管理、年会費、入退会、住所変更）に

ついても、11 月半ばにはメディ・イシュから新事務局へ全面移管される予定です。来春には新しい Web 会員システムが稼動し、会員限定ページにて、Web 版会員名簿の閲覧、検索等の新サービスも可能となります。今後、事務局機能を強化していきますので、宜しくお願いいたします。

〒 102-0072 東京都千代田区飯田橋 3-11-5

20 山京ビル 11 階

日本分子生物学会事務局

(担当：福田、並木、陽^{みなみ})

TEL: 03-3556-9600 FAX : 03-3556-9611

E メール : info@mbsj.jp

◆日本分子生物学会 2005 年度会計収支決算報告

2005 年度学会会計収支決算は以下の通りになりましたのでご報告いたします。

(第 14 期 会計幹事 菅澤 薫)

2005 年度日本分子生物学会収支決算報告書

(2005 年 4 月 1 日 ～ 2006 年 3 月 31 日)

収入の部

単位：円

科 目	予算額	決算額	備 考
学 会 費	56,450,000	55,276,700	正会員会費： <u>40,443,500 円</u> (2005：4500 円 × 8287 名、他：3,152,000 円)
賛 助 会 費	1,470,000	1,290,000	学生会員会費： <u>12,314,500 円</u> (2005：3000 円 × 3568 名、他：1,610,500 円)
預 金 利 子	20,000	6,852	海外会員会費： <u>520,650 円</u>
国際誌購読謝礼金	1,900,000	2,074,232	入会金 (1999 名分)： <u>1,998,050 円</u>
雑 収 入	50,000	58,700	三菱化学より 130 万円 (奨励賞に充当)
寄 付 金 収 入	1,300,000	6,300,000	
収 入 小 計	61,190,000	65,006,484	
前 年 度 繰 越 金	40,401,141	40,401,141	
合 計	101,591,141	105,407,625	

支出の部

科 目	予算額	決算額	備 考
事 業 費	27,450,000	27,482,084	ブラックウエル社支払い (フリーアクセス料 100 万円含む)
会報発行	3,200,000	3,111,969	
年会補助金	5,000,000	5,000,000	
春季シンポジウム補助金	7,000,000	7,000,000	
国際誌発行支援金	6,300,000	6,146,000	
オンラインアクセス費用	4,400,000	4,369,000	
国際誌購読関係費	750,000	639,450	
ホームページ関係費	300,000	598,500	
事業費予備費	500,000	617,165	新旧合同評議員会、臨時評議員会旅費
評 議 委 員 会 費	1,000,000	1,872,374	
委員会費 選挙・名簿作成費	1,000,000 0	1,872,374 0	
業 務 委 託 費	12,000,000	12,538,157	プログラム、会報等 郵送料
通 信 費	11,940,000	12,072,569	
一 般 事 務 費	1,540,000	1,100,141	
印刷費	350,000	195,990	うち庶務幹事事務費 50 万円
庶務事務費	740,000	560,000	
雑費	450,000	344,151	
三菱化学奨励賞 関係費	1,300,000	1,543,470	副賞 50 万円 (3 名)、賞状筆耕代他
予 備 費	2,000,000	0	
支出小計	57,230,000	56,608,795	
次年度繰越金	44,361,141	48,798,830	
合 計	101,591,141	105,407,625	

◆ 2005 年度会計監査報告

日本分子生物学会 2005 年度収支決算報告に際し、会計帳簿、銀行通帳、会計証憑書類（領収書）などの監査を行い、決算に誤りのないことを確認しました。

日本分子生物学会第 14 期会計監査

2006 年 7 月 20 日 近 藤 寿 人 ㊞

2006 年 7 月 25 日 荒 木 弘 之 ㊞

◆日本分子生物学会 2006 フォーラムのお知らせ（その 3）

『分子生物学の未来

～コンファレンス&サイエンティフィック・エキジビション～』

フォーラム開催に関する詳細は、ホームページをご確認ください。

<http://www.aeplan.co.jp/mbsj2006forum>

会 期：2006 年 12 月 6 日(水)～ 8 日(金)

会 場：名古屋国際会議場（名古屋駅より約 30 分）

参加受付：12 月 6 日(水) 8：15 ～

当日参加費：正会員 8,000 円、非会員 10,000 円、学生（非会員の学生含む）5,000 円

◇ Late Submission のお知らせ◇

日本分子生物学会 2006 フォーラムでは、Late Submission として、下記の通り一般からの演題を追加募集いたします。詳細はフォーラムホームページにてご確認ください（<http://www.aeplan.co.jp/mbsj2006forum>）。

【投稿受付】 ホームページ上でオンラインにて受け付けます
（非会員からの投稿も受け付けます）。

<http://www.aeplan.co.jp/mbsj2006forum/>

【締切日時】 2006 年 11 月 20 日(月) 17：00

注) Late Submission にて投稿された演題は、ポスターでの発表となります。

通常の「プログラム・要旨集」には掲載されませんが、「Late Submission」要旨集に掲載され、当日配布いたします。

プログラム

プレナリーレクチャー

日 時：12 月 7 日(木) 9：00 ～ 11：00

会 場：A 会場（1 号館 2 階・センチュリーホール）

演 者：山中 伸弥（京都大学 再生医科学研究所 教授）

「人工万能幹細胞の可能性と課題」

上田 建仁（トヨタ自動車 東富士研究所 常務役員）

「自動車技術の課題とバイオテクノロジーへの期待」

※当初プレナリーレクチャー講演者として予定されていた Victor Ambros 教授は、ご本人のご事情により、急遽キャンセルとなりました。

シンポジウム

組織委員会・プログラム委員会にて 50 テーマのシンポジウムを企画しました。

3 日間の会期中、10 会場で毎日開催いたします。

日 時：12 月 6 日(水)～8 日(金)午前・午後（時間は日によって変わります）

テーマ：50 テーマ 274 演題

一般口頭発表

一般演題より希望を募り、採択された 197 演題の口頭発表を行います。若手研究者を中心とした、優秀かつ新鮮な発表が期待されます。ぜひご参加ください。

日 時：12 月 6 日(水)・7 日(木) 15：20～16：50

ポスターセッション

日 時：12 月 6 日(水)～8 日(金) 13：10～15：10

説明・討論：奇数番号 13：10～14：10/ 偶数番号 14：10～15：10

演 題 数：1,513 題

第 6 回男女共同参画企画ワークショップ

「研究と子育ての両立をめざして」

日 時：12 月 8 日(金) 12：00～13：00

会 場：B 会場（1 号館 3 階・131 + 132 室）

※ランチョンセミナー形式で開催します

企画ワークショップ

学術的内容以外の興味深いテーマについて特別なワークショップを開催します。

1. 「ライフサイエンス推進の統合戦略を考える」

日 時：12 月 7 日(木) 13：10～15：10

会 場：J 会場（3 号館 3 階・国際会議室）

2. 「生命科学とメディアとのコミュニケーション」

日 時：12 月 8 日(金) 13：10～15：10

会 場：C 会場（1 号館 3 階・133 + 134 室）

3. 「分子生物学教育—高校と大学のギャップを超えて—」

日 時：12 月 8 日(金) 17：30～19：30

会 場：B 会場（1 号館 3 階・131 + 132 室）

バイオテクノロジーセミナー

計 24 社の企業・団体主催により、会期中毎日、最大 9 会場並行にてランチョンセミナー形式で行います。

日 時：12月6日(水)～8日(金) 12：00～13：00

テーマ：24 テーマ

機器・試薬・書籍等展示会

分子生物学の研究に関連する企業・団体による展示会をポスター会場にて開催いたします。

日 時：12月6日(水)～8日(金) 10：00～18：00

(8日(金)は16：00まで)

プログラム・要旨集

プログラム・要旨集は、11月20日(月)に発行を予定しております。

事前参加登録をされた方(参加費には「プログラム・要旨集」1冊の代金が含まれます)、および「プログラム・要旨集」のみを申し込まれた方には事前にお送りいたします。

フォーラム期間中の宿泊についてのお問合せ

本フォーラムのオフィシャルトラベルエージェントである日通旅行を通して会期中の宿泊予約ができます。

会報No.84に綴込みの「宿泊ホテルのご案内」、およびフォーラムホームページに掲載の「会期中の宿泊のご案内」をご利用ください。

お申し込み・お問い合わせは下記に直接ご連絡ください。

日通旅行(株) 大阪支店『日本分子生物学会 2006 フォーラム係』

担当：森永・高橋・澤田

〒541-0041 大阪市中央区北浜 1-1-6 日通北浜ビル 1 階

Tel：06-6232-0567

Fax：06-6232-0157

E-mail：aa-sawada@nittsu.co.jp

URL：http://www15.nittsu.co.jp/travel/event/bunshi2006/

保育室開設のお知らせ

保育室

期 間：12月6日(水)～8日(金)

保育期間：8：30～19：00 (8日は17：30まで)

対 象：生後8週以降から小学校3年生まで (4年生以上も応相談)

保育形態：ベビーシッター会社からの派遣シッターによる託児

委 託 先：ポピンズサービス名古屋 (株式会社ポピンズコーポレーション)

保 育 料：400 円/時間

申 込 先：ポピンズサービス名古屋

Tel：052-541-2100 (受付時間：月～金 9：00～17：30)

Fax：052-541-2112

E-mail：nagoya@poppins.co.jp

お申し込みの際には、①利用日・時間(開始～終了)②保護者のお名前③お子様のお名前・年齢・性別④連絡先電話番号を必ずお知らせください。

お申し込みいただいた方には、ポピンズサービス名古屋より事前にお電話で、お子様について詳細をお伺いいたします。メールでお申し込みされた方で、12月2日(土)までにポピンズサービス名古屋よりお電話連絡がない場合は、上記宛に必ず電話でお問い合わせください。

申込締切：12月1日(金)15:00

なお、不測の事故に対応するために、シッター会社が保険に加入しており、保険適用範囲では補償されますが、日本分子生物学会および日本分子生物学会 2006 フォーラム組織委員会は、事故の責任は負わないことを申し添えます。

親子休憩室

期 間：12月6日(水)～8日(金)

フォーラムプログラム開始時間の30分前～プログラム終了時間の30分後

場 所：1号館4階・433室

予約は不要ですので、お子様とご一緒に食事や休憩、授乳あるいはオムツ換えなどにご利用ください。ただし、お子様単独でのご利用はご遠慮ください。また、今後の参考に利用状況の調査を行います。利用された方は、部屋に備え付けのアンケート用ノートに利用者のお名前、所属、お子様の人数、利用時間、その他ご意見などをご記入いただきますようお願いいたします。

なお、親子休憩室内で起きた事故や怪我に対して、日本分子生物学会、日本分子生物学会 2006 フォーラム組織委員会および(株)ポピンズコーポレーションは、一切の責任を負わないことを申し添えます。

会場の所在地

下記電話番号は、会場の代表番号です。フォーラムに対するお問い合わせは、フォーラム事務局までお願いします。

名古屋国際会議場

〒456-0036 名古屋市熱田区熱田西町1-1

Tel: 052-683-7711 (代表)

フォーラムについてのお問合せ

日本分子生物学会 2006 フォーラム事務局

〒532-0003 大阪市淀川区宮原4-4-63 新大阪千代田ビル別館9階

E-mail: mbsj2006forum@aeplan.co.jp

Tel: 06-6350-7247

Fax: 06-6350-7248

URL: <http://www.aeplan.co.jp/mbsj2006forum/>

◆日本分子生物学会三菱化学奨励賞授賞式および受賞講演のご案内

「平成18年度日本分子生物学会三菱化学奨励賞」の授賞式および受賞講演を下記の要領により開催いたします。

記

【授賞式および受賞講演】

日 時：2006年12月7日(木) 11:10～12:00

場 所：名古屋国際会議場（センチュリーホール）

【第4回日本分子生物学会三菱化学奨励賞 受賞者】

中島 欽一（奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科 教授）

細胞外因子と細胞内エピジェネティクス機構による神経系細胞の分化・可塑性制御
Fate regulation of neural cells by extracellular cues and intracellular epigenetic programs

村田 茂穂 ((財) 東京都医学研究機構 東京都臨床医学総合研究所 主席研究員)

哺乳類プロテアソームの多様性と分子基盤の解析

Studies on the diversity and molecular bases of mammalian proteasomes

◆日本分子生物学会 第7回春季シンポジウムのご案内

第7回春季シンポジウムを淡路島において開催することになりました。内容については現在鋭意準備中ですが、予定している計画の概要をお知らせいたします。皆様方のご協力と多くの方のご参加・講演のお申込みをお願いいたします。

なお、前日(4月22日(日))には徳島市において市民公開講座を開催いたします。

【会期】2007(平成19)年4月23日(月)～24日(火) (2日間)

【会場】兵庫県立 淡路夢舞台国際会議場(兵庫県淡路市)

(新幹線新神戸駅、JR三宮駅よりバス約50分またはJR山陽線舞子駅よりバス約20分)

【プログラム】

22日(日) 午後(徳島市) 市民公開講座 阿形 清和 教授(京都大学大学院理学研究科)

23日(月) 午前・午後 招待講演および一般講演(口頭、ポスター)
夕方 懇親会

24日(火) 午前・午後 招待講演および一般講演(口頭)

【招待講演者】(予定講演者;五十音順 敬称略)

Antonio J. Giraldez (Harvard University)

Oliver Hobert (Columbia University)

Erika Matunis (Johns Hopkins School of Medicine)

Iain M. Hagan (Paterson Institute for Cancer Research)

Robert E. Pruitt (Purdue University)

角谷 徹仁(国立遺伝学研究所)

小林 悟(岡崎国立共同機構・統合バイオサイエンスセンター)

塩見美喜子(徳島大学ゲノム機能研究センター)

渡辺 嘉典(東京大学分子細胞生物学研究所)

【発表形式】

(1) 招待講演

(2) 一般講演募集(ポスター発表:約70演題を募集、その中から15演題程度を一般講演(口頭発表)として採択いたします)

一般講演の申込締切は、2月末日の予定です。

【参加申込】

第7回春季シンポジウムのホームページにてご案内いたします(11月中旬にホームページを開設し、日本分子生物学会ホームページよりリンクいたします)

【参加費】参加費は、一般が2,000円、学生は無料です。

懇親会(9月23日(月)夕方)にご参加の場合は、2,000円をいただきます(学生は無料で懇親会に参加できます)。

なお、会場隣接のウェスティンホテル淡路の宿泊を割引で受付いたします(シンポジウ

ムのホームページにてご案内いたします)。

【問合せ】 〒 770-8503 徳島市蔵本 3-18-15
徳島大学ゲノム機能研究センター
分子機能解析分野・塩見研究室
電話：088-633-9456、FAX：088-633-9492、
E-mail：mbsj2007@genome.tokushima-u.ac.jp

◆学術賞、研究助成の本学会推薦について

本学会に推薦依頼あるいは案内のある学術賞、研究助成は、会報 No. 83 (2月号) に一覧として掲載しております。そのうち、応募にあたり学会等の推薦が必要なものについての本学会からの推薦は、本学会研究助成選考委員会または賞推薦委員会の審査に従って行います。応募希望の方は、直接助成先に問合せ、申請書類を各自お取寄せのうえ、ふるってご応募下さい。

本学会への推薦依頼の手続きは次の通りです。

1. 提出物

- 1) 本申請に必要な書類 (オリジナルおよび募集要項に記載されている部数のコピー)
- 2) 研究助成・選考委員用および学会用控に、上記申請書類のコピー計 6 部 (論文は不要) (賞推薦の場合はコピー計 7 部をご提出下さい。)
- 3) 申込受付確認のための返信封筒 (返信用の宛名を記入しておいて下さい)

2. 提出先

※賞推薦についての送付先

日本分子生物学会 賞推薦委員長 辻本賀英
〒 565-0871 吹田市山田丘 2-2 大阪大学大学院医学系研究科 B8 遺伝子学
FAX：(06) 6879-3369

※研究助成についての送付先

日本分子生物学会 研究助成・選考委員長 石川冬木
〒 606-8501 京都市左京区吉田近衛町 医学・生命科学総合研究棟 405 号
京都大学大学院生命科学研究科 細胞周期学分野
FAX：(075) 753-4197

3. 提出期限

財団等の締切の 1 カ月前まで。提出期限後に受取った場合や、提出書類が不備な場合は、選考の対象にならないことがあります。

◆男女共同参画委員会活動報告

【2007 年女子高校生夏の学校—科学・技術者のたまごたちへ—】

2006 年に続き、2007 年度も協力委員として参加いたしました。今年も男女共同参画委員会および国立女性会館の主催で昨年の倍以上の 113 名の女子高校生が参加し、昨年より 1 日長く 8 月 17 日から 2 泊 3 日で行われました。研究者・技術者による講演、パネルディスカッション、各学協会から提供の実験、ポスター展示およびキャリア相談、女子大生企画のクイズ大会、自由討論、オリエンタリングと盛りだくさんの内容で、参加した高校生の満足度も高く、すでに来年も来たいと言う学生や、来年大学に合格したら運営に参加したいという学生もあり、理工系への興味をより深めてくれたようでした。分子生物学会所属の会員の皆様からは実験、ポスターなどに多大なご協力をありがとうございました。

いました。また、学会からは京都国際学会のときのTシャツをクイズ大会の商品として提供していただき、ありがとうございました。このような企画は何年も続けてゆくことが大事だと思います。生物系を希望する参加者が非常に多かったので、できれば来年も続けていただければと思います。
(文責：首都大学東京 福田公子)

【日本学術振興会・特別研究員(RPD)制度に関するWebアンケートにご協力いただきありがとうございました】

日本学術振興会は学術研究分野における男女共同参画の観点から、優れた若手研究者が出産・育児による研究中断後に円滑に研究現場に復帰する環境を整備するため、「特別研究員-RPD」制度を平成18年度に創設しました。本学会の男女共同参画委員会は、この画期的な研究者支援制度が男女共同参画の一層の推進に結びつくよう、制度スタート直後の研究現場の声を集約し今後の制度改善を働きかけたいと考え、Webアンケートを実施いたしました。会員の皆様には多数ご回答いただきありがとうございました。回答結果を制度改善に反映させるべく、現在分析中です。

(文責：熊本大学 田賀哲也)

【第4回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムの開催】

1年間、分子生物学会が幹事を務めました男女共同参画学協会の今年のシンポジウムが下記のように開催されました。

日時：10月6日(金) 10:00～分科会
13:00～全体会
18:00～懇親会

場所：東京大学山上会館

テーマ：育て、女性研究者！！ 理工系女性研究者支援の新しい波

主催：男女共同参画学協会連絡会

後援：文部科学省、日本学術会議、東京大学

【男女共同参画関連企画のお知らせ】

名古屋で開催される分子生物学フォーラムにおきまして、下記の企画を予定しています。ランチョンセミナーの枠を使わせて頂いています。お弁当も出ますので、是非奮ってご参加下さい。

第6回男女共同参画事業「研究と子育ての両立をめざして」

日 時：12月8日(金) 12:00～13:00

世話人：松尾 勲(大阪府立母子保健総合医療センター研究所)、金井正美(杏林大学医学部)

趣 旨：

研究活動の現場において、制度整備や意識改革の遅れから研究と子育ての両立が困難であることが指摘されています。今年は、男女共同参画の推進のための提言で要請していた施策の幾つかが実現化され、制度として動き出しました。そこで、2006フォーラムにおいては、今年の男女共同参画推進事業全般について、出産・育児後の研究復帰支援策の1つである特別研究員 RPD 制度について、会員による PPD 制度に関するアンケート結果についてそれぞれご講演頂きます。特に、研究と子育てを両立させるためには、どのような制度整備や意識改革が必要であるか、現在の取り組み、今後の課題に焦点を絞ってお話を頂く予定です。

演 者：松尾 勲、大隅典子(東北大学大学医学系研究科)、久保真季(日本学術振興会)、田賀哲也(熊本大学発生医学研究センター)、金井正美(オーガナイザー：大阪母子センター 松尾 勲)

◆ Genes to Cells 編集室より『投稿規定等に関するお知らせ』

Genes to Cells への皆様のご支援に御礼申し上げます。Genes to Cells のホームページは以下のとおりです。最新の投稿規定、Editorial Board の名簿などの情報はこちらをご参照ください。

<http://www.blackwellpublishing.com/journal.asp?ref=1356-9597&site=1>

本年3月より投稿と審査はすべてオンライン化されています。投稿をご希望の方は、以下のアドレスより投稿手続きにお進みください。

<http://gtc.manuscriptcentral.com/>

現在、より一層使い易くなりますよう、現行のオンライン投稿システムの更新を来年にも行うべく準備を進めております。現在のシステムに対し、お気づきの点、改善すべき点などございましたら、更新の際に参考とさせていただきますたく存じますので、どうぞ編集室(office@genestocells.jp)へ電子メールにてご意見をお寄せください。

なお、本年1月より編集室が京都に移りました後に、いくつか編集上の細かい変更を行いましたので、お知らせいたします。

○References のフォーマットを変更し、引用文献の著者の人数の上限を引き上げました。従来は、

著者が6名までの文献……著者全員を表記

著者が7人以上の文献……先頭3名 & *et al.* と表記

としていたため、著者が多い文献を引用した場合、last author が誰なのか分かりにくい等の問題がありました。この夏以降発行された号より順次、

著者が15名までの文献……著者全員を表記

著者が16人以上の文献……先頭3名 & *et al.* と表記

のように、ほとんどの文献について著者全員をリストアップしていただけるように変更いたしました。この変更に対応したEndNote用のスタイルファイルを下記サイトにて配布しておりますので、ご投稿の際はどうぞご利用ください。

<http://www.genestocells.jp/>

○図の最終稿をいただく際に、従来はTIFF形式またはEPS形式のみにてお願いしておりましたが、現在はPhotoShop、Illustrator、PDF各形式の図も受け入れ可能となっております。しかしながら、JPEG形式で保存された図は文字や線の周囲にノイズが入っておりますので、お預かりできません。また、TIFF形式のファイルとして送っていただいたファイルの中には、図の作成の途中にJPEGで保存した際のノイズの痕跡が残っているものが時々見受けられますが、このようなファイルもJPEG形式と同様、お預かりできません。このような場合、再度図を送り直していただくことになってしまいますので、図を作成する際には、文字や線画が含まれる図は途中段階をJPEG形式で保存しないようお願いいたします。

今後とも皆様のGenes to Cellsへのご投稿、ご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

Genes to Cells 編集室

松下ゆかり

湯浅 達朗

office@genestocells.jp

◆ Genes to Cells オンライン版へのアクセスに関する報告とお詫び

日本分子生物学会会員の皆様

日本分子生物学会のホームページにおきまして、Genes to Cells オンライン版へのアクセス方法が紹介されています。その中で「日本分子生物学会の会員はGenes to Cellsのオンライン版へフリー

でアクセスできます。」と案内されています。しかしながら、本年度に入会された会員以外の皆様のオンラインアクセスが、本年4月よりできなくなっておりました。一部の会員の皆様より、「オンラインアクセスができない。」との苦情を頂いていたにも関わらず、十分な対応ができておりませんでした。オンラインアクセスができなかった原因については、Blackwell Publishing 社側の照合用テーブルの未更新が原因である可能性が浮かんでおり、この深刻な不手際を早急に改善するように、Blackwell Publishing 社に要求しているところです。また今後、Blackwell Publishing 社と契約の見直しを進めていく所存です。会員の皆様に多大なご迷惑をおかけしたことについて、編集幹事として誠に申し訳なく、心からお詫び申し上げます。本件の詳細につきましては、12月7日に開催される分子生物学会2006フォーラム総会、および学会ホームページ内のサイト (http://www.soc.nii.ac.jp/mbsj/genes_to_cells/gene2cell_online.html) において報告申し上げます。

編集幹事 上村 匡

◆各種学術集会、シンポジウム、講習会等のお知らせ

○第1回トランスポーター研究会

日 時：2006年12月16日12時-17日12時

会 場：共立薬科大学芝校舎マルチメディア講堂

第1回世話人：安西尚彦（杏林大・医・薬理）

共 催：共立薬科大学

主 題：トランスポーターの重要性和若手の交流

プログラム：

☆講演1「トランスポーター研究の過去、現在、未来」

東京大・院・薬・分子薬物動態 杉山雄一

☆講演2「特定領域研究トランスポートソーム」
杏林大・医・薬理 金井好克

☆シンポジウム

SLC トランスポーター 7題

ABC トランスポーター 4題

トランスポーター最近の話題 5題

☆ポスター発表（ミキサー、優秀賞選考有）

演題応募締切：2006年11月14日(火)

あらゆる種類のトランスポーター研究に関するポスター発表演題を募集します。詳細は下記

HPをご覧ください。

参 加 費：学生(院生含む)3,000円、一般5,000円

（ミキサー代を含む。当日受付は各500円増）

若手有志により運営される会ですが、参加制限はありません。多くの方々のご参加をお待ち致しております。

参加申込：11月14日までに郵便振替により以下の口座宛でお振込下さい。氏名、住所、所属、電話番号 e-mail アドレスを必ず明記して下さい。

（振替手数料はお手数ですが各自ご負担ください。）

郵便振替 口座番号 00140-7-667745

口座名称 トランスポーター研究会

問い合わせ先：〒105-8512 東京都港区芝公園1-5-30

共立薬科大学薬剤学講座 内

第1回トランスポーター研究会

事務局長 崔 吉道

TEL & FAX：03-5400-2553

<http://www.transpot.umin.jp/>

○第3回びわこバイオ国際セミナー「ゲノムから産業へ——創薬・医療への新たなアプローチ——」参加者募集

システム生物学、ケミカルゲノミクス、タンパク質相互作用、バイオインフォマティクスなど、創

薬や医療に向けたさまざまなアプローチから、最新の研究やビジネスの状況と展望についてセミナーを開催します。ヒトゲノムプロジェクトで中心的役割を果たしたリロイ・フッド氏をはじめ、国内外のトップクラスの講師を迎え、少人数で充実した討論や交流を予定しています。

主 催 滋賀県、滋賀バイオ産業推進機構
日 時 12月20日(水)13:30～22日(金)11:30

会 場 滋賀県長浜市
長浜ロイヤルホテル (0749-64-2000)
曳山博物館 (65-3300)

プログラムの概要

・12月20日(水):13:30-16:45

基調講演 リロイ・フッド システムズバイオロジー研究所長

特別講演 デビッド・ワイナー ペンシルベニア大学教授

レセプション、イブニングセッション、交流会 (17:15～)

・12月21日(木):9:00-17:15

特別講演 バー・アンドレン ウプサラ大学教授

講 演 池村淑道 長浜バイオ大学教授
岡島伸之 日本たばこ産業(株)医薬研 GL

矢野純一 日本新薬(株)取締役

夏目 徹 産総研研究チーム長

吉田 稔 理化学研究所主任研究員

夕食会、イブニングセッション、交流会 (18:30～)

・12月22日(金):9:00-11:30

視 察 長浜バイオ大学、バイオインキュベーションセンター

言 語 日英同時通訳あり

参 加 費 3万円(全プログラム可)(20日のみ参加2万円)

申 込 み 以下を記入し、E-mail、ファクス、郵便でお申し込みください。(締切12月8日)

以下の事務局ホームページからも申込できます。

(1) 氏名、(2) 所属、役職 (3)、住所、電話、ファクス、メールアドレス (4) 滋賀バイオ産業推進機構会員・非会員の別、(5) 通常参加、12月20日のみ参加の別、(6) 申込者の研究・事業の簡単な紹介 (7) 会場ホテル仮予約要否 (19、20、21日)

申込み・問合せ先

滋賀バイオ産業推進機構 国際セミナー係
〒526-0033 滋賀県長浜市田村町1281-8

長浜バイオインキュベーションセンター内
電話 0749-62-4810、FAX 0749-62-5656

E-MAIL info@shiga-bio.jp

<http://www.pref.shiga.jp/f/shinsangyo/sbo/>

○千里ライフサイエンスセミナー

免疫・感染症シリーズ第1回「自己免疫疾患とその制御」

日 時 平成19年2月27日(火)10:00～17:00

場 所 千里ライフサイエンスセンタービル5階ライフホール

着 眼 点 正常自己組織に対する免疫不応答、即ち免疫自己寛容の破綻は自己免疫病の発症につながる。本セミナーでは、免疫自己寛容の導入・維持における制御性T細胞の役割、自己免

疫病の原因・発症に關与する遺伝因子、またサイトカインの操作による治療など、自己免疫病研究の最近の進歩について議論する。

コーディネーター：大阪大学微生物病研究所
所長・免疫不全疾患研究分野 木下タロウ
京都大学再生医科学研究所
生体機能調節学分野 坂口志文

プログラム：

1. 自己免疫病と制御性 T 細胞
京都大学再生医科学研究所生体機能調節
学分野 坂口志文
2. MR1 拘束性 T 細胞による自己免疫の制
御
国立精神・神経センター神経研究所免疫
研究部 山村 隆
3. 膠原病のポリジーンネットワーク
愛媛大学大学院医学系研究科ゲノム病理
学分野 能勢真人
4. 自己免疫性皮膚疾患・天疱瘡の病態とそ
の制御
慶應義塾大学医学部皮膚科学教室 天谷
雅行
5. IL-6 を標的とする関節リウマチの治療
大阪大学大学院生命機能研究科免疫制御
学講座 西本憲弘
6. T 細胞レセプター遺伝子導入による自己
免疫疾患制御
東京大学医学部アレルギー・リウマチ内
科 山本一彦

定 員：300 名

参 加 費：会員（大学・官公庁職員、当財団の
賛助会員）3,000 円

非会員 5,000 円、学生 1,000 円

申し込み要領：①氏名、勤務先、〒所在地、所属、
電話および FAX 番号を明記の
上、郵便、FAX または E-mail
で下記宛お申し込み下さい。
②事務局より受付の通知を返送
いたしますので、通知書に記載
した振り込み先口座に参加費を
お振り込み下さい。
③入金を確認後、通常 2 週間以
内に領収書兼参加証をお届けい
たします。

申 込 先：(財)千里ライフサイエンス振興財団セ
ミナー W4 事務局
〒 560-0082
大阪府豊中市新千里東町 1-4-2
千里ライフサイエンスセンタービル
8 階
TEL06-6873-2001 FAX06-6873-
2002
E-mail tkd-lsf@senri-lc.co.jp

◆その他

○平成 19 年度に委託する研究開発課題の募集要項（畜産技術協会）

（社）畜産技術協会では、平成 19 年度に委託する畜産技術に関連した研究開発課題を次のとおり
募集（平成 18 年度内に募集、審査を実施）します。

1. 対象課題

「食料・農業・農村基本法」により国が定める畜産に関連する各種の計画や目標に対応し、食料の
自給率向上、安定供給及び農業の持続的発展、農村の振興に資する次のような目的・目標の課題。

- 1) 畜産の生産性向上
- 2) 高品質・安全で特色ある畜産物の生産
- 3) 環境にやさしい畜産
- 4) ゆとりある安定的な畜産

2. 委託の期間及び金額

原則として、1 課題につき 2 年間で総額 500 万円以内（単年度の場合は 250 万円以内）とします。

3. 応募方法

応募要領と応募様式は当協会のホームページ（<http://jlta.lin.go.jp/>）からダウンロードするか下記問

い合わせ先に請求の上、平成 18 年 12 月 8 日(金)[当協会必着]までに郵便にてお申し込み下さい(ファクス及び電子メールでの受付はいたしません。)

詳細は、以下へお問い合わせ下さい。

——【この応募要領に関するお問い合わせ先】——

社団法人 畜産技術協会 研究開発第一部(担当 宮重)

〒113-0034 東京都文京区湯島 3-20-9

Tel : 03-3836-2301 Fax : 03-3836-2302

E-mail : itaku-1@jlta.jp

ホームページアドレス : <http://jlta.lin.go.jp/>

日本分子生物学会 会報
年 3 回刊行

第 85 号 (2006 年 11 月)
発 行：日本分子生物学会
製 作：日本分子生物学会 事務局